

代表 スペック	2回路	1回路	入力トランジスタ	入力インピーダンス	全高調波歪+雑音		電源電圧	600ohm負荷 ユニニティゲイン	入力オフセット 電圧	スルーレート	帯域幅	発表
解説	すべてピンコンパチ	ピンコンパチ。オフセット電圧調整できるがそのPINが違う場合がある	FET入力は高入力インピーダンス	高インピーダンスは信号源のインピーダンスが高くても微小信号が受けられる。オーディオでは数100KΩから1MΩあればOK	歪とノイズの測定合計、少ないほうが良い	ノイズ特性、少ないほうが良い	使用できる範囲、高いほうがダイナミックレンジがとれる	出口の負荷が重い時のドライブ能力があるか？1倍でのバッファAMPとして使えるか？	±の入力のばらつき、出に出る。低いほうが良い	信号の高速立ち上がり特性、高いほうがよい、	周波数特性、高いほうがよい	製品発表時期
BB パーブラウン	OPA2604	OPA604	FET 信号系もFET	1000GΩ 10の12乗	0.0003%	11nV/√Hz	±4.5~24V	可能 可能	±1mV	25V/uSec	20Mhz	1991年
BB	OPA2134	OPA134	FET	10000GΩ 10の13乗	0.00008%	8nV/√Hz	±2.5~18V	可能 可能	±0.5mV	20V/uSec	8MHz	1996年
BB	なし	OPA627A	FET	10000GΩ 10の13乗	0.00003%	4.5nV/√Hz	±4.55~18V	可能 可能	±130uV	55V/uSec	80MHz	1998年
BB	なし	OPA827A	FET	10000GΩ 10の13乗	0.00004%	4nV/√Hz	±4~18V	可能 可能	±150uV	28V/uSec	22MHz	2006年 SOPのみ
TI テキサス インスツルメンツ	NE5532A	NE5534A	バイポーラ	300KΩ 100KΩ (5534)	記述なし	5nV/√Hz 3.5nV/√Hz (5534)	±3~20V	可能 可能(5532のみ)	±0.5mV	9V/uSec	10MHz	1980頃
NS ナショナル セミコンダクタ	LME49720	LME49710	バイポーラ	1000MΩ	0.00003%	2.7nV/√Hz	±2.5~17V	可能 可能	±0.1mV	20V/uSec	10MHz	2007年
NS	LME49860	なし	バイポーラ	1000MΩ	0.00003%	2.7nV/√Hz	±2.5~22V	可能 可能	±0.1mV	20V/uSec	10MHz	2007年
NS	なし	LME49990	バイポーラ	-	0.00001%	0.9nV/√Hz(Typ.) 1.3nV/√Hz(max)	±5~18V	可能 可能	130uV (typ) 1mV(max)	22V/uSec	110MHz	2010年 SOPのみ
ADI アナログ デバイセス	なし	AD797	バイポーラ	記述なし	~-120dB	0.9nV/√Hz	±5~18V	可能 可能	25uV	20V/uSec	8MHz	?
ADI	AD8599	AD8597	バイポーラ	記述なし	~-120dB	1.1nV/√Hz	±4.5~18V	可能 可能	10uV	14V/uSec	10MHz	? SOP
ADI	OP275	なし	FET	記述なし	0.0006%	6nV/√Hz	±4.5~22V	可能 可能	1mV	22V/uSec	9MHz	?
LT リニアテクノロジー	なし	LT1115	バイポーラ	250MΩ	0.002%	0.9nV/√Hz	±22Vmax	可能 不可	50uV	10V/uSec	40MHz	?
LT	なし	LT1028	バイポーラ	300MΩ	記述なし	0.85nV/√Hz	±22Vmax	可能 不可(位相補正C必要)	40uV	11V/uSec	50MHz	?
LT	LT1364	LT1363	バイポーラ	50MΩ	記述なし	9nV/√Hz	+/-2.5±18V	可能 可能	1.5mV	1000V/uSec	70MHz	?
JRC 新日本無線	NJM4580	なし	バイポーラ	記述なし	0.0005%	0.8uVrms	±2~18V	記述なし	0.3mV/typ 3mV/max	5V/uSec	15MHz	1980年代
JRC	NJM2114	なし	バイポーラ	100KΩ	0.0005%	3.3nV/√Hz	±3~22V	可能 可能	0.2mV/typ 3mV/max	15V/uSec	13MHz	1990年代

■ キットに入ってる型番